

平成28年度 事業報告

(平成28年4月1日から29年3月31日まで)

I 病院ボランティアに関する事業

平成28年度も沖縄県社会福祉協議会の民間福祉基金助成の補助をいただき、養成講座を実施することができました。心より感謝申し上げます。平成27年9月から開始した琉球大学医学部附属病院小児科外来での活動は、週2回(水・金10:00~12:00)7人のボランティアがおこなっています。こども医療センターは40人のボランティアが活動しています。10年の節目を迎えて、活動も週末活動へと拡大しています。養成講座は「こども支援病院ボランティア養成講座」と改め、第21・22期講座を開講し、こども医療センターと琉大附属病院小児科で活動するボランティアを募集しました。

また、活動するボランティアのスキルアップのための勉強会も大阪大学より講師を招聘して実施しました。

1) 病院ボランティア活動の支援

ボランティアスキルアップ勉強会開催

テーマ：アメリカの小児病院におけるボランティアの役割と意義

～チャイルド・ライフ・スペシャリストの視点・経験を通して～

講師：馬戸 史子(大阪大学医学部附属病院小児医療センター CLS)

日時：平成29年1月27日(金)17:30~19:30

場所：沖縄県立 南部医療センター・こども医療センター 2階講堂

2) 琉球大学医学部附属病院小児科外来・小児病棟における活動

- ① 第21期養成講座受講者1名が病院でのオリエンテーションと実習を受け、抗体検査をクリアして活動を開始。
- ② 第22期養成講座を受講した1名が病院でのオリエンテーションと実習を終了。活動には至っていない。
- ③ 平成28年度はこども医療センターで活動しているボランティア2名が登録して病棟での活動を行った。活動ボランティアは合計7名。活動内容：病児きょうだいの遊び相手、見守り。
活動日：水・金10:00~12:00。

3) こども医療センターにおける活動

- ① 第21期受講生のうち5名が登録、3名が活動に入った。22期受講生は7名が登録、5名が活動に入った。
- ② 平成28年度 登録人数50名。活動人数：40名。
活動日：月~金 9:00~16:00、週末活動月2~3回(1~4時間)

- ③ 活動場所：小児外来、小児病棟（4・5階）
- ④ 活動内容：病院フロア案内、病児・きょうだいの遊び相手、見守り、読み聞かせ、イベントの参加手伝い、プレイルームの環境整備、勉強の支援等。

4) 病児家族を支援活動する病院ボランティア養成講座の実施

於：県立 南部医療センター・こども医療センター

《第21期こども支援病院ボランティア養成講座》 受講生25人

日時：8月11日（木・祝日）9:00～17:00

① 講座1

「私たちが望むボランティア ～ 看護の立場から～」

講師：比屋根 三和子（県立 南部医療センター・こども医療センター 看護師長）

講師：大嶺 千代美（琉球大学医学部附属病院 副看護部長）

② 講座2

「私たちが望むボランティア ～ 医師の立場から～」

講師：金城 僚（県立南部医療センター・こども医療センター 小児外科部長）

講師：金城 紀子（琉球大学医学部小児科医）

③ 講座3

「医療センターの感染症対策 ―感染症と予防接種―」

講師：安慶田 英樹（県立南部医療センター・こども医療センター 副院長）

④ 講座4

「ボランティアに必要なマナーとコミュニケーション」

講師：喜久里 美也子（脳文庫主宰）

⑤ 講座5

「病児のサポート、きょうだい支援～DVD視聴」

講師：佐久川 夏実（県立南部医療センター・こども医療センター CLS）

⑥ 講座6

「グループワーク&まとめ」

講師：先輩ボランティア11人、受講者全員



《第22期こども支援病院ボランティア養成講座》受講生16人

日時：平成28年2月11日（土）9:00～17:00

① 講座1

「私たちが望むボランティア ～ 看護の立場から～」

講師：宮城 久美（県立南部医療センター・こども医療センター 看護師長）

講師：大嶺 千代美（琉球大学医学部附属病院 副看護部長）

② 講座 2

「私たちが望むボランティア ～ 医師の立場から ～」

講師：金城 僚（県立南部医療センター・こども医療センター 小児外科部長）

講師：金城 紀子（琉球大学医学部小児科医）

③ 講座 3

「医療センターの感染症対策 ―感染症と予防接種―」

講師：安慶田 英樹（県立南部医療センター・こども医療センター副院長）

④ 講座 4

「ボランティアに必要なマナーとコミュニケーション」

講師：喜久里 美也子（脳文庫 主宰）

⑤ 講座 5

「病児のサポート、きょうだい支援～DVD視聴」

講師：佐久川 夏実（県立南部医療センター・こども医療センター CLS）

⑦ 講座 6

グループワーク&まとめ

講師：先輩ボランティア 10人、受講者全員



II 遠隔地病児家族等の宿泊施設運営事業

1) ファミリーハウス「がじゅまるの家」(以下ハウス)の受託運営等

① ハウス運営-スタッフ 10人(10月より9人)によるシフト制 ～ 24時間 365日稼働。

ナイトマネージャー 有償ボランティアとして 4人活動登録

平成28年度 利用者延べ人数 4,643人(病児 697人含)。

居室 稼働率 平均 67.7% 利用家族平均 33家族。

② スタッフ会議(毎月第2月曜日 10時～12時:全スタッフ・事業団参加)

ハウスマネージャー会議(第3木曜日 14時～16時)、ナイトマネージャーボランティア作業

(第2月曜日 12時～)。利用者が安心して安全に過ごして頂けるよう、常に利用者寄り添いホスピタリティーな運営に努めた。

③ ハウス事業 業務報告書 毎月提出(事業報告、宿泊者名簿、会計収支報告、請求書)

④ ハウス運営協議会開催(2016.9/15)

参加:県保健医療部健康長寿課、県立南部医療センター・こども医療センター、事業団、わらびの会、ハウスマネージャー)

平成26年度から稼働率が70%を下回っていることから、70%以上を目指すために、成人利用も受け入れていく必要があるとの課題に対して、病院では成人利用については条件付き(予約ができない、病児優先で退室してもらう可能性がある等)のため周知は行っていない。ハウスでは、条件付きで受け入れている。今後、医療センターの地域連携室で対応可能かどうか再検討してもらった結果、「条件が厳しいため積極的には進めてない。但し、離島など緊急に受診した場合に

限り、家族の希望があれば地域連携室に相談してもらい、宿泊の有無を確認し連絡したい。」との回答を頂いた。

病児の付き添い家族の休憩利用、シャワー利用の要望等があり、施設利用料金については事業団が他県のハウスと比較するなどして、検討することになった。

2) ハウス多目的室 完成

ハウス多目的室の増築工事が5月13日着工され、8月1日竣工検査を終え8月3日に(株)沖電工より引き渡しが行われ、早速、8月9日～11日まで三つ子の大家族(8名)が利用した。現在、会議や研修会・勉強会、施設見学者への説明会など大いに活用されている。

3) スタッフ研修会・講習会・勉強会

- ① がじゅまるの家消防訓練(2回)実施(6/13, 12/12)、施設の定期自主検査を行い利用者の安全に努めた。
- ② 第17回JHHHネットワーク会議参加(8/7) 於:東京 1人参加
ファミリーハウスフォーラム2016～英国小児ホスピスの現場から～(8/6)

3) 「がじゅまるの家」視察見学者

- ① 全国小児病棟遊びのボランティアネットワークの皆さん7人来所、交流を行った(7/4)
- ② 沖縄大学福祉文化学科島村ゼミ生12人ハウス見学・意見交換会(7/12)
- ③ 鹿児島県子ども福祉課課長他1人ハウス視察見学(7/19)
- ④ 日本赤十字九州国際大学教員3人ハウス視察見学(8/26)
- ⑤ 平成28年度・第26期 かりゆし長寿大学校 健康福祉学科 火曜日コース32人、木曜日コース30人来訪。わらびの会の会活動について説明、ハウス施設見学(9/8・9/13)
- ⑥ フードバンクセカンドハーベスト、サントリー(東京)3人来所、見学(9/9)
- ⑦ (株)沖縄サンゴ 北村社長他来所(9/15)
- ⑧ 沖縄県ファミリーサポートセンター連絡協議会21人 施設見学者・説明(1/9)
- ⑨ 「第3回病児の遊びとおもちゃケア」沖縄フェアラム 東京おもちゃ美術館一行26人ハウス施設見学(説明)(1/29)
- ⑩ その他、個人多数

4) がじゅまるの家まつり開催

第3回 がじゅまるの家まつりが10月23日(日)11時～15時開催された。がじゅまるの家を広く県民に周知・理解頂くため、そして増築した多目的室(マンタ)のお披露目も兼ねて開催した。フードコーナー、手作りショップ、リサイクルバザー、舞台等盛りだくさんの内容に約130人が参加下さった。まつり開催にあたり、多くのボランティアの協力を頂いた。感謝申し上げます。

5) ハウス利用者との交流

① 第4回 わらびの会合同クリスマス会が12月10日(土)、こども医療センター1階外来で開催され、ハウス利用者も家族で参加し、楽しい一時を過ごして頂いた。こどもたちには在沖米空軍嘉手納基地ボランティアグループのサンタさんよりプレゼントがあり、保護者の皆さんは、ヘッドマッサージやゆんたくカフェでくつろいでいただいた。

がじゅまるの家クリスマス会(12/22・木)は、スタッフの手作り料理にケーキを頂き、ビンゴゲームを楽しみながらプレゼント交換を行い、利用者とスタッフの交流を行った。

② 日本盲導犬協会の協力により盲導犬がハウスに来訪、こどもたちとふれ合い、楽しい一時を過ごしました(11/11)。

6) ボランティアによる活動

① ノバルティス ファーマ(製薬会社)社員6人 清掃ボランティア(4/16)

② かりゆし長寿大学校 第24期 健康福祉学科卒生18人 清掃ボランティア(4/28)

③ ファースト ライティング テクノロジー 社員4人 清掃ボランティア(9/3)

④ 沖縄電力(株)おきでん対話旬間による「がじゅまるの家」清掃ボランティア(52名)(11/5)

⑤ ノバルティスファーマ(製薬会社)社員4人 清掃ボランティア(11/26)

⑥ かりゆし長寿大学校 第26期生15人 清掃ボランティア(12/22)

⑦ 個人による清掃ボランティア

* 毎週木曜日 10時～12時 手づくりボランティアフルール活動

* 毎週火曜日 10時～12時 清掃ボランティア活動

Ⅲ 広報活動

1) わらびの会10周年記念誌発行

平成29年1月30日発行 258ページ、1,500部、印刷：株式会社 東洋企画印刷

「母子総合医療センター設立推進協議会」設立から、こども医療センター開設が実現した後の「NPO法人こども医療支援わらびの会」設立にいたるまで、わらびの会設立から今日までの約20年間の活動をまとめた記念誌。

発行までの経緯：平成26年7月19日、第1回編集委員会開催、資料の整理及び原稿執筆依頼等行う。

平成27年 計11回の編集委員会開催、10周年記念座談会(7人) 県医師会にて開催(11/18)、

平成28年 計24回の編集委員会開催、平成29年1月30日発行。

2) その他の広報活動

① 会誌「わらびの会だより11号」および「がじゅまるの家だより15号・16号」を発行して広報に努めた。会員、一般市民、医療関係者、全国の滞在施設、各市町村、鹿児島県本島及び大島郡(奄美大島・徳之島・沖永良部島・与論島)の関係部署へ送付した。

- ② わらびの会ホームページ及びがじゅまるの家ホームページにより、会活動や情報をタイムリーに広報することに努めた。
- ③ 全国小児病棟遊びのボランティアネットワーク(7人)意見交換・交流により当会活動の紹介(7/4)。
- ④ 第21回 幸せの黄色いレシートキャンペーン交流会及び贈呈式に参加、広報活動を行った(5/8)。
- ⑤ 第3回 がじゅまるの家まつり開催により地域・一般県民への周知・広報を行った(10/23)。
- ⑥ 株式会社 サンシャイン ゆいま〜る 第1回キックオフ説明会に参加 会活動の紹介を行った(12/12)。

IV その他、目的を達成するために必要な事業

1) ピアサポート活動

今年度は、沖縄県小児慢性特定疾病児自立支援に係るピアカウンセリング業務委託を受けて、こども医療センター及び県立 北部病院でのピアサポート活動、サポーター養成のためのセミナー初級編、活動中のサポーターのスキルアップのための講座を開講した。また、名護市・宮古島市・石垣市において病児家族のための勉強会を開催した。

① こども医療センターにおける活動

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

活動日：月 5 日、月～金曜日 午前 11 時～午後 3 時

活動場所：こども医療センター 1 階小児外来 入口カウンター

活動団体：9 団体

活動回数：上半期 4～9 月 29 回、サポーター 21 名 延べ 61 名

下半期 10 月～3 月 28 回、サポーター 20 名 延べ 62 名

相談件数：20 件

② 県立北部病院における活動

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

活動日：月 1 日、第 4 水曜日 午前 11 時～午後 3 時

活動場所：県立 北部病院玄関フロア

活動団体：1 団体

活動回数：上半期 4～9 月 6 回、サポーター 13 名 延べ 7 名

下半期 10 月～3 月 6 回、サポーター 12 名 延べ 4 名

相談件数：5 件

③ 各団体におけるピアサポート (153 件)

訪問教育親の会・・・・・・・・・・1 件 (29.1 月)

ダウン症 (仲地 和代)・・・・・・・・・・23 件 (28.4～29.2 月)

ダウン症 (奈良岡 美奈子)・・・・・・・・・・5 件 (28.5～29.2 月)

心臓病の子どもを守る会・・・・・・・・・・19 件 (28.5～29.2 月)

自閉症協会・・・・・・・・・・35件(28.4～9月)
北部地域 親の会 綾・・・・・・・・46件(28.4～29.3月)
沖肢連・・・・・・・・・・5件(28.4～29.3月)
がんの子どもを守る会・・・・・・・・2件(29.1～2月)
聴覚障害児を持つ親の会・・・・・・・・4件((28.11～29.2)
日本てんかん協会 沖縄県支部・・・・・・・・13件(28.4～29.2)
相談件数：153件(上記団体)

④ こども医療支援ピアサポートセミナー

〔第5回 初級編：11名受講〕

日時：平成28年11月19日(土) 9:00～17:00

会場：県立 南部医療センター・こども医療センター 2階会議室

講師：本田 睦子(認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク 事務局)

講義内容／『難病ネットとピアサポート活動への理解を深める』

講師：福島 慎吾(認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク 専務理事)

講義内容／『ピアサポートの心構え、子どもの難病と公的な支援』

講師：田中 千鶴子(神奈川工科大学 看護学部 看護学科 教授)

講義内容／『難病や障がいのある子と家族の理解と支援』

講師：諏訪 茂樹(東京女子医科大学 看護学部 人文社会科学系 准教授)

講義内容／『相互支援のためのコミュニケーションスキル1・2』

⑤ 〔第3回 ステップアップ編：12名受講〕

日時：平成28年11月20日(日) 9:30～12:30

会場：県立 南部医療センター・こども医療センター 2階会議室

講師：諏訪 茂樹(東京女子医科大学 看護学部 人文社会科学系 准教授)

講義内容／ティーチングとコーチング 使い分け

⑥ 〔第1回 宮古島 ピアサポート勉強会&交流会：26名参加〕

日時：平成28年11月1日(火)13:00～16:00

会場：沖縄県立 宮古病院 3階講堂

講師：田中 千鶴子(神奈川工科大学看護学部 看護学科 教授)

内容／『家族に学ぶ』病気や障がいのある子と家族の支援
～ピアサポートの意義や大切なこと～

⑦ 〔第3回 石垣島 ピアサポート勉強会&交流会：12名参加〕

日時：平成28年11月2日(水)13:00～16:00

会場：沖縄県 八重山合同庁舎 1階会議室

講師：田中 千鶴子（神奈川県立看護大学看護学部 看護学科 教授）

内容／『家族に学ぶ』病気や障がいのある子と家族の支援

～ピアサポートの意義や大切なこと～

⑧〔第1回 北部地域 ピアサポート勉強会&交流会：29名参加〕

日時：平成28年11月20日(日)15:00～17:00

会場：沖縄県立 桜野特別支援学校（講堂）

講師：田中 千鶴子（神奈川県立看護大学看護学部 看護学科 教授）

内容／『病気や障がいのある子どもと家族の支援、家族と支援者共に学ぶピアサポート』

⑨ ピアサポート活動振り返り会

○こども医療センターでの活動 前半（4月～9月）

日時：平成28年10月7日（金）11:00～14:00

場所：ファミリーハウス「がじゅまるの家」多目的室 マンタ

参加者（15名）：城間 米子、諸見里 美和、宮城 稲子、森脇 千夏、喜屋武 美津江、嘉数 清美、山川 ケイコ、西江 悦子、玉城 よし子、金城 清美、仲地 和代、奈良岡 美奈子、片倉 弘美

事務局：崎山 忍、儀間 小夜子

【活動の概要】

- ・相談の経路としては、病院のポスターやチラシを見てというのが最も多く、次に知人・家族の紹介でした。他の病院でポスターを見て、こども医療センターでピアサポートがある事を知り訪れた方もいらっしゃった。
- ・対応の内容としては、傾聴と情報提供が主。また、親の会等への紹介引継ぎもあった。
- ・相談の内容は、病状について・養育(発達)・福祉制度(手当)などがあった。
- ・相談のない時は、お互いの情報交換などをして有意義だったとありました。

【これからの課題】

- ・来年、再来年とピアサポート活動の日数を増やし、最終的には開院している日には“サポーターが常駐” 目指している中で、サポーターの人数が少なく毎月のシフトを確定するのが難しい。
- ・サポーターを増やすにはどういう工夫が必要か。

○こども医療センターでの活動 後半（10月～3月）

日時：平成29年3月15日（水）11:00～13:00

場所：ファミリーハウス「がじゅまるの家」多目的室 マンタ

参加者（11人）：玉城 よし子、城間 笑子、西江 悦子、谷口 曜子、城間 米子、片倉 弘美、
真栄城 正美、喜屋武 美津江、宮城 稲子
事務局：儀間 小夜子、久場川 牧子

【活動の概要】

- ・相談の経路は、保健所の保健師をとおしてピアサポート活動の詳細を訊ねられた。病院、わらびの会へのメールをとおして相談があった。
- ・対応の内容としては、傾聴し助言を行った。親の会を紹介し情報の収集を行っていただいた。
- ・相談の内容は、病状について、術後の生活の不安、養育（子育て）、医療センター以外の患児の親の不安や相談も聴いてもらえるかなどがあった。
- ・相談のない時は、お互いの情報交換やサポーター同士の交流による学びができ、有意義だった。
- ・その他として、受付、救急や総合案内、お子さんの見守り、入院手続きの場所、自動再来受付機の不調、授乳室・地域連携室の場所、車いすの返却場所、トイレ、駐車券などについて訊ねられ案内した。

● 活動を振り返って報告

- ・活動はこれまでの4時間2人体制を基本とするが、都合のつかない場合は午前2時間（11～13時）、午後2時間（13～15時）で入る。
- ・ピアサポ活動が徐々に知られるようになってきた、継続していて良かった。あいさつ、声掛けが大事。
- ・受付の工夫が必要（折り紙等 子どもが興味を示すものを揃える）。受付で顔が見えるようにした方がよい。
- ・受付の近くにボランティアショップを置いてはどうか。
- ・地域連携室の相談室を使用させてもらう。
- ・子どもが関心を持てるものを置く。
- ・医師がピアサポ活動を行っている事を病児家族へ伝えてほしい（背中を押してもらえる）。
- ・わらびの会各団体の活動は、社会資源である。

【これからの課題】

- ・ピアサポート活動の日数を増やし、開院している日には“サポーターが常駐”を目指したい。これまでにセミナー受講生は約80人いる。活動して頂くにはどのような工夫が必要か。
- ・その他
- サポーター増員のためには、わらびの会団体以外の病児家族へも声掛をして、活動への参加を促す（誘う）。セミナーの案内を積極的に行う。

意見：心疾患児の家族が多くみられ、対応としては傾聴、会の紹介や情報提供 など行った。

活動以外に病院内の受付や会計などの案内が多かった。

○県立 北部病院での活動 前半（4月～9月）

日時：平成28年10月4日（火）11：00～14：00

場所：北部地域親の会 綾 事務所

参加者（9名）：金城 美智子、小浜 恵子、伊芸、宮城 朝子、宮城 栄子、仲本、前田 さやか

事務局：崎山 忍、儀間 小夜子

相談件数 2件

【これからの課題】

- ・ピアサポート活動のことを周知するためにはどういう工夫が必要か
- ・来年、再来年ピアサポート活動の日数を増やしたいと思っているが、サポーターの人数が少ないサポーターを増やすにはどういう工夫が必要か。

○県立北部病院での活動振 後半（10月～3月）

日時：平成29年3月16日（木）11：00～13：00

場所：北部親の会「綾」事務所

参加者（10人）：金城 美智子、前田 さやか、宮城 朝子、内間 須賀子、小浜 恵子、岸本

結菜、宮城 栄子、伊芸さん

事務局：久場川 牧子、儀間 小夜子

【活動の概要】

- ・相談件数は3件でした。
相談経路は病院で病児の母親、内容は、入院中の治療費や外来受診の際に付き添いがいないと一人では心配、相談できるところや話を聞いてくれるところが欲しかった。対応は、傾聴・他機関（保健所・病院）・親の会を案内
- ・綾の会事務所・・・8件（11月～1月）
相談者は母親、相談内容は、生活・福祉制度に関することが多い、その他子育て、教育など。
対応としては、傾聴と助言。

【これからの課題】

- ・ピアサポート活動のことを周知するためにはどういう工夫が必要か
 - ・来年、再来年ピアサポート活動の日数を増やしたいと思っているが、サポーターの人数が少ないサポーターを増やすにはどういう工夫が必要か。
 - ・その他
- 活動場所の雰囲気づくり（折り紙、子どもたちが興味をもつ玩具など揃える）を行う。
看板をつくる（玄関を入れてきて正面でお互いの目が合わないようにする）。
こどもスペースをつくる（コーナーの設置、マットの準備）。
平成29年度からは、小児科の受診の多い曜日を調べて活動日にしたい。
小児科医（佐々木先生・島袋先生）にピアサポ活動を保護者に知らせてもらう。こどもスペースの確保について願います。

- 北部でのピアサポートセミナー開催は子どもたちとの時間調整がなかなかできず、受講生の参加が難しい、わらびの会が開催するセミナーに出向き受講したい。勉強会は開催してほしい。
- 現事務所は名護療育園が新たな事業展開のため使用することになった。そのため事務所を明け渡さなければならない（2か月以内）。名護市内に物件を探している。

⑩ 【ピアサポート実地研修】

平成 28 年 6 月 30 日～7 月 2 日

- ・国立成育医療研究センター、神奈川県立こども医療センター、東京都立小児総合医療センターにて実地研修。（参加者：沖肢連/諸見里、北部地域障がい児・者親の会「綾」/福峯、事務局/儀間）。
- ・「難病のこども支援全国ネットワーク」主催の『第 38 回こどもの難病シンポジウム(より良い在宅医療の実現のために)』にも参加、各地で取り組んでいる小慢事業のポスター発表があり、わらびの会ピアサポート活動もポスターにて紹介した。

★ハウス見学及び自立支援事業の取り組みについてヒアリングのため来訪

三平 元 先生 国保 松戸市立病院診療局 小児医療センター 小児科

大藤 佳子 先生 愛媛県立 新居浜病院 小児科部長

西 朋子 氏 NPO 法人 ラ・ファミリエ理事

日時：平成 29 年 3 月 18 日（土）13：00～15：00

場所：ファミリーハウス「がじゅまるの家」多目的室マンタ

参加者：19人

目的：H27 年 1 月より自立支援事業が実施→実際の運営において、明確な指針がなく模索している現状→実地調査、情報収集等→事業の指針を示し指導要領（案）の作成を行う。

2) 「がじゅまるの家」における預かり保育の実施

平成 28 年度の実施はなかった。

3) 第 4 回 わらびの会 合同クリスマス会開催

病気や障がいのある子とそのきょうだいのために「こどもが主役のイベント」を実施し、日頃の頑張りを称える。いつも看病しているお母さん・お父さんたちへリラックスできる時間を提供することを目的に 4 回目の開催。今年度も金秀青少年育成財団のご支援を頂きました。今回は、嘉手納基地のボランティアを始めとして、一般（保育士、自然農園経営者、NPO 団体、自営業など）多方面から協力を得た事で、各コーナーが充実して子ども達がより一層楽しめた。また、多くの人に わらびの会 活動と病児家族への支援の必要性を理解していただけた。感謝申し上げます。

日 時：平成 28 年 12 月 10 日（土）14：00～17：00

場 所：県立南部医療センター・こども医療センター 1 階小児外来

参加者：212人（こども94人、大人63人、スタッフ及びボランティア約55人）

プレゼント提供：金秀青少年育成財団（助成金）、在沖米空軍 嘉手納基地

対象：わらびの会 各構成団体家族、入院中の病児家族、病院スタッフ、ボランティア他

内容：こども広場、ステージの演し物が充実した事により、病児やきょうだい、お友だちと一緒にゲームやシールラリー等に楽しく興じ、交流できた。

☆ 寄付 124 件、寄贈 189 件（個人 146、団体 43）多くのボランティアのご支援ご協力を頂きました。感謝申し上げます。

☆ ファミリーハウス「がじゅまるの家」利用者の声

〔利用者ノートより 平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月〕

*北部病院で無事出産と喜んだ次の日、子どもに病気がみつき救急に転院。色々な不安がおしよせるなか、病院の方からがじゅまるの紹介があり、すぐ予約。本当に大きな安心をえられました。がじゅまるでの生活は、みな様家族の様に接して下さり、うれしかったです。おいしい“もずく”をいただいたり、お野菜をいただいたり・・・赤ちゃんも成長して回復して良い方向に進んでいるし・・・明日、家に帰りますが、ずっと笑ってられる様に頑張りたいと思います。

本当にありがとうございました。

名護市 Cさん

*今回で2度目の利用になります。初めて、お世話になった時は、4/14の夜遅い時間にもかかわらず、受け入れて貰いとても助かりました。石垣からの緊急搬送の為、バタバタと飛行機に乗り込み、宿の予約もしないまま不安な時間が流れて皆、疲れきっていましたが、がじゅまるさんのあたたかい心にとても癒やされました。GW2度目の利用（子供達は初めて）5人家族を泊めて下さり、ありがとうございました。長女（切迫早産27週）も24時間点滴をしていて長期になりますが、顔色も良くなっています。6月の中旬まで、せめてお腹の中で大きく成長してくれたらと願っています。又、行ったり来たりで利用させて下さい。よろしくお願い致します。

石垣市 Aさん

*6/19～6/22、今回は4泊お世話になりました。毎度のことながら本当に、がじゅまるの家が利用できとても助かりました。今回は医療センターだけでなく琉大も行く事になり、まさか沖縄本島に来て病院をハシゴすると思いませんでした。琉大への行き方もスタッフの方がバスの時刻などプリントして下さり、分かりやすく説明していただき、土地勘のない私には本当にありがたかったです。

スタッフの皆さんも息子、私の事を覚えていて下さり、顔を見ただけで優しく声かけしてもらい、心がホッコリうれしくなりました。息子も上のお姉ちゃんも、がじゅまるへ行くのが楽しみなよう

で、救われています。10月末日～また、琉大と医療センターハシゴの予定です。離島から金銭的にも、朝から船、バス、飛行機・・・と大変ですが、がじゅまるの家へ来れることを楽しみにがんばります！！

本当にありがとうございました。

西表島 Tさん

*今回は大変お世話になり、ありがとうございました。ボランティアによって成り立っている事、とても勉強になりました。そして、離島からの通院や緊急入院など本当に急な時、心も不安いっぱいな時に、このがじゅまるの家が心強い味方になってくれる事に感謝です。また、お世話になる事があるかと思えます。ここで学んだ事を明日からの生活に少しでも役立てたらなと思えます。困っている人を助ける、耳を傾ける、ボランティア精神を養う・・・自分にできる事から始めたいと思えます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

与那国町 Mさん

*多目的室 宿泊第一号ということで嬉しいです！！おめでとうございます。半年に一回の検診でいつも大家族で「がじゅまるの家」を使わせてもらっていますが、本当にいつも親切で子供達も来るのを楽しみにしています。半年前には無かった新しい多目的室、とても広くて子供達、大喜び！！スタッフさん達は不便がないかと心配してくださっていましたが、私達家族はなんの不便もなく快適に過ごすことができました。今回は手術の予定がかわり少し早く帰ることになりましたが…また半年後の春あたりにお世話になりたいと思えます。本当にありがとうございました。

沖永良部 Fさん

*今回も、とてもお世話になりました。息子が医療センターで生まれ、早や9年になりました。その頃はまだ、このハウスがなくて、素泊まりの場所から毎日、バスで通っていたのを思い出します。息子が生まれてやがて一年は毎月のように沖縄へ、そのうちハウスができて、それからは何度も利用させて頂き、気持ちの面でもすごく助けていただきました。息子の事も覚えて下さり「大きくなったねー、たくましくなったね。」などと声をかけて頂き嬉しくなります。経過をみるため何度も通って来ましたが、今回の検査で「もう心配はないでしょう」との事で、本当に良かったです。嬉しい反面、沖縄にもハウスにも来るのがなくなると思うとさみしい気もします。何度も何度も本当にありがとうございました。このハウスがいつまでも皆の支えになると思えます。皆さんお元気で、お世話になりました。

徳之島町 Sさん

*楽しい沖縄旅行の最終日に子供が熱を出してしまい、熱性けいれんで病院に運ばれました。その後もなかなか目が覚めず。様子がおかしかった為、髄膜炎の検査もしてもらいました。結果は異常なく、無事目が覚めたのでホッとしました。帰りの飛行機に乗れず、泊まる所もなく、不安なときにこちらで受け入れていただけて本当に感謝しています。ありがとうございました。姉弟

もここに泊らせてもらえて喜んでます。今から病院に戻り、様子を見てきます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。 大阪府 Mさん

* 生まれてすぐ県立北部病院から、こちらのこども医療センターに搬送となりNICUにて治療しておりました。私自身も転院し、先に退院。どのようにNICUにいる子供のところに通おうか夫と悩んでいるところに、ケースワーカーさんからこちら「がじゅまるの家」を紹介して頂きました。20日間の連泊させてもらうことになり、助かりました。スタッフの皆さまに良くしてもらい、話しかけてもらうことで、私も安心して子供の所へ行くことができ、大変感謝しております。思いがけず、早めの県北への転院も決まり、北部の方へ帰ることになりました。ゆっくりですが、回復し退院できるように頑張っていきたいと思います。スタッフの皆さま、本当にありがとうございました。「がじゅまるの家」のおかげで、ストレスなく子供のところへ通えた事に感謝します。皆さまもお体に気をつけてお過ごしください。お世話になりました。

名護市 Yさん

*12/20に突然、沖縄への紹介状を書きますと言われてから、次の日に飛行機で、こども医療センターへ、その日から入院となりました。2週間以上はかかると言われ、今回は家族みんなでの年越しはできないと思いましたが、「がじゅまるの家」があることを知り、妻、弟と宿泊し、本人の外泊許可も出て、家族そろって年を越すことができました。「軌跡のこども病院」を途中購入し読ませていただき、この病院のありがたさ、がじゅまるの家のあたたかさを感じました。スタッフさんたちをはじめたくさんの方の思いのある施設を利用させて頂き、ありがとうございました。お世話になりました。

与論町 Sさん

* 平成25年に娘が生まれ病気が見つかり、その中で当時「ファミリーハウス がじゅまるの家」の存在と優しいスタッフの皆さんにとっても助けられました。もう3歳になった娘。今回娘を連れて父・母と3人で利用させていただきました。「Kちゃんには2つの家があるんだね。今日はとても楽しい♪♪」ととても素敵な時間を過ごすことができました。入院や手術は大変ですが“ファミリーハウス がじゅまるの家”に泊まれる楽しみは私たち家族にとって励みになっています!!又、泊まりに来たいです。優しく接してくれてありがとうございました。

名護市 Kさん

* 娘の琉大受診のため利用させてもらいました。(離島から)

以前からがじゅまるの家の存在を知ってはいたのですが本当に意義・意味の深い深〜い素晴らしい施設です!!今回は3泊のところまさかの「受診する娘の付き添い」であったはずの私が極度の疲労による突発性難聴。また県立北部病院受診等々渡り歩いて疲れるはずのところ快く延泊をすすめて下さり感謝・感謝です。9年経つとは思えない、完璧なまでの清潔に保たれた明るさに満ちたがじゅまるの家、気持ちの良いスタッフとボランティアの方々によって支えられているの

を実感します。娘も他の部屋の子ども達と楽しく遊んでがじゅまるの家が大好きになりました。次回、受診の際もここに泊まるのが楽しみで辛くないでしょう。今後もお世話になります。ありがとうございました。

伊是名島 Kさん